

これは誰しも疑問や興味の湧くところですが、その為には、先ずくるまの構造自体から考えて見る必要があります。

くるまは、内部から外はよく見えるが、逆に外又は他人からは、くるまの内部は非常に見えにくい。つまり他人からは自分が見られにくく、自分の方からは他人の一挙手一投足まで見る事が出来るという、隠れ蓑（みの）を着た心理状態と同じになり易いのです。我々は、子どもの頃、魔法のマントを着て「他人に気付かれないで、色々な事が出来たら、どんなに素晴らしいことだろう」と思ったことがあるでしょう。そしてその魔法のマントを着て、自由自在に思う場所にとんで行けるとしたら、これ程愉快なことはないと思っただかも知れません。

スーパーマン気どりの運転者

実はくるまこそ、そういった人間の願望をかなえて呉れるものなのです。二輪車の場合だって同じこと。最近のヘルメットは紫頭巾（むらさきずきん）月光仮面も顔まけのカッコよさ！二輪車にうち跨って颯爽と走る姿を想像するだけでもわくわくするじゃありませんか。

我々は、日頃の言動は、すべて他人から見られています。その言動が響き（ひんしゆく）ものであれば、他人から白い眼で見られたり注意されたりします。然し、くるまやバイク

に乗ると、どこの誰かは分かりにくい。それに、あつと言う間に遠くへすっ飛んで行ける魔法のマントがあるのだから、「旅の恥はかき捨て」の心理になるのも無理からぬことなのです。「誰にも見つからず、捕らぬことになれば、ひよつとすると、「二丁いたずらでもやつて見るか」といった気持も頭をもたげる筈ですね。

ハンドルを持つと「人格の地金」が出る!?

ここまで書くと、賢明な諸君にはもうお分

りでしょう。つまり、くるまという魔法のマントを着ると、日頃のつつしみや、お上品さが影をひそめて、ついついその人の地金が出て来るわけ。だから、「ハンドルを持つと、人が変わる」と言うより、「ハンドルを持つと、その人の地金が出る」と言った方が適切なのです。

だから、せっかちな人は、くるまに乗ると余計にせっかちになります。攻撃的な人格の持主は、余計に攻撃的な運転になるわけです。くるまには、このような魔性が潜んでいるようです。呉々も気をつけて下さい。まさに「運転が示すあなたのお人柄」なのです。

二一世紀は安全が基本

協調と共生の二一世紀へ
— 基本は安全から —

工学部地域環境工学講座

門田博知

人類は多くの苦い経験を通して、ようやく協調と共生への道を歩み始めている。多様化、国際化、高齢化、南北格差の拡大の中にあつて、二一世紀は、人類がより安全で住みよい

社会の構築を進める時代であろう。このため自然環境、社会環境について深く研究し、協調と共生の術を学ばねばならない。二一世紀に活躍する学生諸君は新しい国際社会を目指し、夢をもって努力されんことを祈る。自己とともに安全であることはその基本である。